

令和3年8月2日

京口門だより No.94

厳しい暑さが続き、コロナ感染症の増加、オリンピック・パラリンピックなど難しい状況と行事が重なり、いささか困惑気味な夏です。身体の上でも気持ちの上でも不調に陥らないよう、気をつけて日常生活を過ごして欲しいと思います。「この暑さ生くべくわれは耐へにけり」(中尾白雨)

この新型コロナウイルス流行のなかで、今年はRSウイルスが季節外れの流行を起こしていると言われていています。RSウイルスというのは日本語では、呼吸器系合胞体ウイルス(ウイルスが細胞と合胞体をつくるから)と訳せますが、秋や冬に幼児や小児が感染するウイルスで、小児では鼻水や発熱などの症状から咳や喘鳴など気管支炎や喘息傾向の症状を起こしてきます。小児では重症化することがありますが、大人では軽度の風邪症状で済むことも多いといわれています。通常寒い時期に流行するウイルスがことしはこの時期に流行していることが異常です。このウイルスは咳やクシャミなどの飛沫であるいは付着したウイルスからうつるといわれ、家族や周囲の人に感染を起こします。重症化した場合には入院治療が必要ですが、初期の鼻水、咳、微熱状態で早めに漢方薬を服用すれば、重症化しないですむかも知れません。現代医学では的確な治療法がなく、ワクチンもないといわれていますから、よけいに初期段階で漢方治療が有用ではないかと思います。ただ風邪症状に似ているからと言って、よく知られている葛根湯は適していません。微熱や咳がありますから柴胡剤(たとえば私どものところの5号や11号)が適していると思います。

よくこのたよりでも漢方の風邪治療について述べてきましたが、漢方治療では風邪薬は決まりきったものではありません。その時期(はじめて罹った時期からどのくらい経ているか)と起きている症状によって使う薬が違ってきます。ですから、風の初期で寒気や頭痛と軽い鼻水だけのような症状では葛根湯も適していますが、微熱がでたり咳がでる、咽が痛いなどの症状が出てくれば、もう葛根湯は使えません。いわゆる柴胡剤の適応になります。これを間違えると、何だ漢方薬は風邪には効かないということになりかねません。もし分りにくければ風邪治療の説明書を作っていますので参考にしてください。

現代医学では一般に細菌感染ならば適切な抗生物質が有効ですが、ウイルス

性感染症には的確な治療薬がありません。ですからワクチンなどで予防することが最も重要とされています。一方漢方医学ではウイルスであろうが細菌であろうが、その人の発症している症状によって様々な漢方薬が準備されています。そんなことでウイルスに効果があるのかと思われがちですが、最近の研究では漢方薬に抗ウイルス作用があることが明らかにされてきました。

